あきた国際フェスティバル２０２６
開催報告書

１　概 要

○ 主　催：公益財団法人秋田県国際交流協会（ＡＩＡ）
○ 共　催：独立行政法人国際協力機構（ＪＩＣＡ）東北センター
○ 日　時：令和８年９月 27 日（日）１０:００～１６:００
○ 会　場：秋田拠点センター アルヴェ　１階「きらめき広場」
○ 開催数：36 回目
○ 趣　旨：県内在住の外国人（個人・団体）による母国紹介や、各国際交流団体の活動紹介などを行うフェスティバルを開催することを通じて、多くの県民と在住外国人が互いの文化に触れる機会を提供し、多文化共生や国際協力等への関心を高め理解を深めてもらう。

２　ブース出展

会場内に 31（主催・共催者を除く）のブースを設ける予定で５月下旬から出展者の募集を開始したところ、６月下旬までにこの数を超える応募があったことから、出展内容等を確認・審査し、下表のとおり出展者を選定しました。出展予定者にはスリランカの方もいましたが、都合により参加できなくなり、最終的に出展者数は 30 となりました。なお、複数の国の方が参加する団体（「アフリカ諸国」と「チャリティ秋田」）については、それぞれ２ブースを割り当てました。

今年度は、トンガ出身のご家族と自治体として秋田市が新たに参加したほか、韓国ブースには、秋田県国際課の国際交流員（CIR）と駐日本釜山市貿易事務所（大阪市）が共同で出展するなど、新たな形態での参加がありました。

参加国数は 22 カ国で、内訳は、単独での参加が 17、複数国での参加は５となっています。このうち「チャリティ秋田」は、アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリスの出身者で構成されていましたので、単独での参加と重複するアメリカ、イギリスを除いた２カ国と、秋田大学の留学生

で構成されている「アフリカ諸国」については、少なくとも３カ国（タンザニア、ガーナ、ボツワナ）の出身者が参加していることが確認できたため、３カ国とカウントしています。

区分	ブース数	内　訳　等
在住外国人 （　）内は所属団体等	２１	イギリス、イラン、カンボジア、中国、トンガ、ニュージーランド、マレーシア、モンゴル、ロシア、アメリカ（県 CIR）、インドネシア（ウィジャヤクスマ）、アフリカ諸国（AAA※：２ブース）、オーストラリア（チャリティ秋田 B）、カナダ（チャリティ秋田 A）、韓国（県 CIR・駐日釜山市貿易事務所）、タイ（ナーターヤシン）、ネパール（秋ネパ友好協会）、バングラディッシュ（特定 NPO 法人バニヤンツリー）、フィリピン（バハイ・クーボの会）、ベトナム（ショートステイ杏） ※African Association in AKITA
国際交流団体等	9	秋田県日中友好協会・女性委員会、秋田ユネスコ協会、秋田ゾンタクラブ、青年海外協力隊秋田県 OB 会、日本国際連合協会秋田県本部、秋田市、大仙市国際交流協会、ヒッポファミリークラブ、秋田県人権擁護委員協議会
主催者・共催者	2	ＡＩＡ、ＪＩＣＡ東北センター
計	３２	

３　参加者の状況及び実績

（1）一般来場者・・・約1,１００名

開会直後から多くの来場者があり、午前中は前年度以上の入り込みであったような印象でしたが、お昼少し前あたりから来場者は落ち着き、以降、閉会まで同様の状況が続きました。

当日は秋田駅西口の「アゴラ広場」のほか中通地区の「エリアなかいち」でも飲食をメインとした集客イベントが開催されていたことから、食事の時間を迎えたお昼以降、そうした会場に人が流れ分散した可能性が考えられます。

今年度は、これまでのブース・レイアウトを変更し、エリアのどこからでも会場に出入りできるような配置としましたが、これにより、入場者の正確な把握が難しくなったため、来場者へ配付するプログラムの数によりカウントすることとしました。しかし、例えば子供連れの４人家族（夫婦と子供２人）の場合、子供２人分のプログラムしか受け取ってもらえないケースがあったり、イベント後半から終盤にかけては、プログラムを受け取らずに入退場したりする方も見受け

られるなど、必ずしも来場者全てに配付できたわけではありません。また、きらめき広場 2 階の通路からステージイベントを観覧されている方も多数見受けられましたが、これらの方々にも配付していません。こうしたこともあって、プログラムの配付数は 728 部（作成総数 1,500 部から残部を引いた数）に留まりました。

以上の状況を勘案し、入場者数については以下のように推計しました。

【 一般来場者推計値：７２８×１.５(任意の係数)＝１,０９２≒１,１００（名)】

来場者を対象としたアンケート（紙及び Google フォームで実施、回答数：41 件）では、92%の方が異文化について「よく知ることができた」「知ることができた」と回答したほか、『今後も継続して開催して欲しい』『ステージでの文化紹介などをもっと増やして欲しい』などのご意見が寄せられました。また、この時期は他のイベントなども多いため『開催時期を（重ならないよう）ずらしてはどうか』というご提案もありました。

（2）ワークショップ・・・２９名

会場の一角に専用のスペースを設け、家族連れの来場者でお子さんにも楽しんでもらえるよう、小学生を対象としたワークショップを行いました。今年は、ゾウやキリンといったアフリカを連想させるような動物が描かれた図案を台紙にし、カラフルな色や柄のアフリカ布の端切れを使って貼り絵を作る「ファブリックピクチャー・コラージュ」（無料）を行い、７回（30 分／回）の枠で計 29 名のお子さんが参加してくれました。

（3）クイズ（スタンプ）ラリー・・・２６０名

来場者にできるだけ多くのブースを訪れていただくため、各ブースで用意したクイズに答えてもらうとスタンプがもらえ、５個ためるとアートバルーン（中学生までを対象）が、20 個ためると輸入菓子（インドネシア産またはタイ産の 2 種類）が貰える企画を実施しました。

スタンプの台紙はプログラムの中に印刷されていて、来場者が持ち帰ったケースが多かったため正確な参加者数は不明ですが、用意したお菓子がほぼ全てなくなったことから、参加者は約260名としました。

（4）出展＆ステージパフォーマンス・・・１４２名（うち外国人住民：６５名）

ブースにアテンドしていただいた方は140名で、このうち外国人住民は63名でした。また、ステージパフォーマンスのみ参加いただいた外国人住民が２名（スコットランドのバグパイプ、コロンビアのフォルクローレ）でしたので、合計で142名となりました。ステージパフォーマンスについては、以下の８つの演目を、それぞれ10～20分の時間で行っていただきました。

ネパール民族踊りと民族衣装の紹介

タイの伝統舞踊（ナータヤシン）

スコットランドのバグパイプの演奏

コロンビアのフォルクローレ（Toto la mompasina）

トンガの伝統舞踊（タカプ・シプリングス）

箏の合奏（「箏思奏愛」秋田北高校箏部）

アフリカン・ダンス（Ubuntu ウブンツ）

インドネシアの伝統舞踊と歌（Kicau Mania）

協会で実施した出展者へのアンケートでは、「来場者との交流」について約８割が「非常に満足」または「満足」と答えていただきました。また、会場のレイアウト変更については、「配置が良くなった」「ステージが見えやすくなり良かった」などのコメントがありました。

一方で、会場内の温度調整について改善を求めるご意見もありました。当日、特に午前中の来場者が多かった時間帯は確かに暑く感じられたため、施設管理者に冷房を強めてもらうなどの対応を依頼しましたが、設備の性能や施設の構造上、室温が全体的に下がるまでに相応の時間を要するなど、適切なタイミングでの調整・対応が難しい点がありました。

（5）スタッフ＆ボランティア・・・２５名

イベント当日の運営については、ステージ運営関係（司会を含む）については専門の業者へ委託しましたが、各ブースの看板や会場案内図、のぼりの設置のほか、クイズ（スタンプ）ラリーやワークショップの運営等については、協会スタッフ６名をはじめ、県国際課職員６名（CIR２名を含む）のほか、ノースアジア大学の学生ボランティア８名、能代松陽高校の生徒５名（ロシアブース対応）にもサポートしていただきました。また、司会の補助には秋田高校放送委員会所属の生徒２名にも担当していただきました。

４　主催・共催者の取組

（1）JICA 東北センター

ブースでは、秋田デスクと山形デスクの国際協力推進員計２名で、JICA 事業に関するパンフレットやチラシを配布し広報活動を行いました。また海外協力隊への応募に関心がある方々には、募集要項などの資料を配付するとともに、青年海外協力隊秋田県ＯＢ会（以下「協力隊 OB 会」）と連携し、体験談を伝えたり応募相談に応じたりしました。

ステージでは、午前と午後の計２回、ボランティア事業の広報のほか JICA 東北と協力隊ＯＢ会の展示ブースを紹介したほか、直近に開催する予定のイベント周知を行いました。

このほか、JICA 東北の研修班を通じて、秋田大学に留学している JICA 研修員に対し事前にイベントへの参加勧奨を行ったところ、アフリカブースの運営に協力してもらうなど、複数の JICA 研修員がイベントに参加しました。

（２）秋田県国際交流協会

ブースでは、国際交流推進員が来場者からの問合せ等に対応するとともに、活動内容を紹介するチラシやリーフレットを掲示・配置し、協会の PR を行いました。また、ワークショップスペース横のボードに多文化共生や日本語教育に関するパネルを掲示し、それぞれの取組の必要性などについて周知・啓発を図りました。

このほか、外国人相談センターの利用案内や各種サポーター制度の紹介、インターナショナルデイの紹介等を、午前と午後のそれぞれ１回、ステージにおいて行いました。

午後１時過ぎには、昨年度に引き続き、当協会の理事長である鈴木健太秋田県知事が来場し、ステージ上から来場者へご挨拶を申し上げたほか、各ブースを回りながら各出展者などと交流しました。

５　次年度に向けて

○ **開催時期**：来場者のアンケートで開催時期の検討について提案がありましたが、当協会の他の事業との兼ね合い等も考慮すると、この時期以外の開催は日程的に難しいため、来年度についても、基本的に 10 月上旬に開催する方向で日程調整します。

○ **改善点等**：会場のレイアウト変更については、出展者からも概ね良好な反応が得られたため、この点については、次年度も同様な形で行うこととします。また、来場者数の把握については、他の手法も含め再度検討するほか、アンケートの回収率向上についてもさらに工夫していきます。